

北海道連道北 訪問 議事録

開催場所	滝川商工会議所	日時：平成27年 8月 8日（土） 11：00 ～ 12：30	
議事録	作成人	日本商工会議所青年部	日本ネットワーク委員会 委員 神林
	署名人	日本商工会議所青年部	日本ネットワーク委員会 副委員長 今泉

次第

- ① 開会、次第、資料確認 ②出席者紹介（日本 YEG・連合会）③伴会長挨拶・日本 YEG についての説明 ④ 連合会の挨拶・連合会の事業等の説明 ⑤フリーディスカッション ⑥質疑応答 ⑦閉会

伴：今日はお集まりいただきありがとうございました。昨年の仲田会長より引き続き昨日は道央、道南さんに行ってきました。夜は道東さんと話をさせていただきます。まず事業について伺いたい。メインになる事業があると思いますが、JCや商工会、法人会や行政、親会と一緒にやっているなんて事業はありますか？

滝川：月に1度研修、話をしている。地域にも参画している。14回目の紙袋ランタンといって3時間飾っている。小学校に。作って飾る。地元のイベント。来年の2月にある。JCとも一緒にやっている。企画からではないが、一緒にやっていることもある。

赤平：国際広場で7回目である飲食店の協力を頂き、夜になるとコスプレがあったり。お店のテナントの中でやったり。今年が目玉事業です。商店街。飲食店の協力のもと。

名寄：JCとも協力をしながらやっている。YEGとして、煮込みジンギスカンのイベントを開催しています。今年はB-1グランプリにもお邪魔する予定。

砂川：先日もまつりだった。来年のブロック大会に向けて取り組んでいる。

紙砂川：全国で2番目に人数が少ないという事で。8月13日に仮想盆踊り大会があり、そこで出店をする。仲田直前の協力のもと、沖縄物産を出店してもらおう。まつりも開催します。子供が楽しめるような。

留萌：3委員会あるが、新入会員を委員長にしている。ビジネスマッチング例会やインターシップ、会社の理念を発表する例会をしている。親会とも協力している。

伴：親会や行政とかかわりがない所はありますか？友好4団体とも普段から話をしている。東北のブロック大会でのフォーラムという形だが、4団体の東北の会長さんが集まる。JCだけ他の担当だが。何かあったときにどう協力していくかというディスカッションをしていく。自分たちだけの話ではない。商店街やJAさん、漁協と一緒に事業をやっているという話があります。

留萌：親会との関係はいいなりです。

伴：会頭が変わったら事務局も変わり対応が変わることがある。出向の話もそう。予算を見てくれるかどうかの話にもなる。日本も伝えていきたい。日商の三村会頭はYEGに対して非常に友好的です。9月に親会の会員大会がある。その中でしっかりと出していきたい。何かあれば代表理事を通して日本に出し入ってほしい。委員長も紙砂川から輩出してもらっています。パイプもあります。どんどん使っ

ていただきたい。みなさんが地域で事業をやりやすい環境にしたい。行政との仲はどうですか？パイプがないところもある。話を聞いてくれないとか。宇都宮はYEGメンバー当時に立候補して今3期目。近い存在。色んな話が出る。色んな形でつながる事。YEGというブランド名をもっと知ってほしいなと思います。日本の事業、大会に何かありませんか？こんなことをやってほしいとか、こんな大会にしてほしいとか。今日は委員長が今年の岡山の大会会長なので一言。

吉田：今日は会長の皆様お休みの中、おまつりがある中ありがとうございます。来年2月に岡山大会があります。再来年は岩見沢です。皆様が体感できるのは岡山になると思いますので是非皆様お声がけ頂いて岡山に来ていただければ。何かお困りのことがあれば直接お電話頂ければ対応しますので。メンバーにも感じてもらいたい。

伴：式典等担当しているのが紙砂川の斎藤委員長でもあります。せっかく行くんですから、楽しんでもらいたい。どんなものがあるのかとか。会長研修会に関してもありませんか？帯広があるので北海道は連続なんですね。他の道府県連は40数年に1回しか来ないが、北海道は12年に1回。やれると思うのですが。大会会長が大変ですよ。要望を頂けると。日程なんかでも。去年と沖縄は少し日程を変えた。変えると分かり辛いなど。土日はお昼に終わるように組んだりはしている。岩見沢からもどんどん発信してほしい。親会の広報誌もあるので情報が欲しい。メンバー数が減っている所は？

2

砂川：じわじわ減っている。

滝川：入会者はいるが卒業生の方が多い。

伴：全国では増えている傾向にある。32000を超えた。年に1000人増加している。北海道連さんも単会が増えている。地域性の問題があり地域によって違う。人口ではない部分がある。5万人の街でも100人の単会もある。今度の会長会議でディスカッションが出来るような時間を作りたい。同じ人口で人数が多い所はどうやっているのかとか。卒業が50を超えているのは？

2

赤平、紙砂川が55才。

伴：全国では45と50が多い。45だと足りないという話もある。大会をやるにしても時間が足りないと。55にしていた所が下げる傾向がある。小樽が55から53に下げた。色んな弊害やいいこともある。千葉の木更津は35で卒業。色んな都合があるので統一はできない。色んなところの情報を聞いて単会で変えられることでスカラ決めてもらいたい。宇都宮も全国やる時に50にあげたかったが49という事にした。私も今年48。出向して時間が足りない。会長をやるのもギリギリ。木更津はサラリーマンが多い。経営者が勉強をして来いと。または企業者ばかりの単会もある。そうなると例会の内容や事業も変わってくる。日本の事業もそうだが。どんどん呼んでほしい。事業や研修が出来れば。宮本さんはビジネス応援という事で日本各地を行ってもらっている。委員会を呼んでもらって一緒に事業とか。風会議狙っている所あります？行政から委託されているところは？

砂川：やっています。

伴：行政も取ったはいいいけど実行できる人がいないと。Y E Gが申し込んで受託をして運営をしている単会もある。例会の出席率は？そこが単会の実稼働だと。全国平均は50%くらい。聞いている中では千葉の柏が一番。90%を超えている。100人で10委員会がある。呼びかけをしやすい環境なのでは。基本は声掛けなのかな。A Tは案内文書だったりする。会って話をしたらまた変わる。私は出向者を出したことがないとか、何か困っているという単会に行きたい考えがあった。年間で話がこうして出来るのは年に1回だと思う。日本の会長は来なければいけないが、話をしなければいけない。次年度はまた違った周り方をすると聞いている。北海道は代表理事、プロ代がいますので話をしたい。23の単会さんがいる。何かあれば常に話をしたい。北海道は広いので各協議会がある。その中でも話をしてほしい。情報を発信して頂きたい。岩見沢からも発信をほしい。北海道の地理が詳しくないが、こういうルートだとか、地域性を聞くとまた違った見え方がある。留萌線が配線になると聞いた。また変わってくると思う。全国に同じような話があれば話を聞きたいですよ。赤平さんの革製品も有名ですよ。宇都宮の百貨店で出店されていた。オーダーで作れるということで作りたかった。そうした話をする機会も出て来る。こうした場で話が出来ると。先日も意見交換会ではあまり話が出来なかったが懇親会になると全然違った。

赤平：Y E Gモールに興味がある。単会で規約を変えて、サラリーマンでも入れるようにした。モノづくりの方がおおいのでモールで商売が出来るような場だといいたい。どういうセールスをすればいいのか。

宮本：現在200件の出店になります。一番売れているのが小物ではなく小さなベッドとか小穴ものが売れている。楽天とポイントを絡めたりしている。皆さんに入ってもらって盛り上げていきたい。商品が売れるのはどんどん更新してみんなで勉強していかないといけません。自分の思いを伝える事が必要。自分でどんどん発信する事。単会でも個人の出店でもOK出店賞は無料です。

伴：まずは一緒にやってみましょうよと言っていたきたい。勉強の場でも構わない。商品が増える事によってモールの価値も上がる。

宮本：現在単会さんからの申込みが2件ある。

伴：宇都宮でも餃子を作った。レシピの募集をしてコンテストをした。宇都宮の食材を使って。食材の問題で製品化が難しかった。副会頭の会社が食品加工会社なので話を進めていた。各商工会議所で地元ブランドを作っている所がある。どんどん使ってほしい。単会内で説明会をして欲しいといえませんが来てくれますよ。そういう中で一番近いのはブロック大会。物産展を出してもいい。

上砂川：特産品がない。市もなんとかしたいと話しているが。今後作っていききたい。

伴：もともとの産業は？

上砂川：炭鉱のまちなので今はこれというのがない。一昨年までは大きな会社があった。新千歳空港での物産も難しい。これから作っていききたい。

伴：色々な所で聞きますね。名産、特産が欲しいと。ビジネス系の委員会を2つ作った。応援と交流。応援の方でも活動をしているのでどんどん使ってほしい。あそこで何をしているとかこういった取り組みをしている情報があるとか。交流は日本国内で海外の企業に販売が出来るような環境を探している。大使館をまわったりしている。オーストラリアの会社からワインを買ったり肉を買ったり。肉は25キロから、ワインは1本から買えるんですね。自分たちでもオーストラリアフェアが出来ちゃうんですね。在日の大使館からお墨付きをもらえないかと話をしている。面白い話。そういったマッチングが出来れば、1年という時間のなかでやる事ですから、成功事例がどんどんできればいいのかなと。プロ代ともそんな話をしたい。産業としては炭鉱が中心だった？

留萌：そうですね。漁協の青年部はあります。YEGモールは個人ではやっていますが、一番困っているのが、事務局を誰がやるのか。これからブロック大会がきて日本に出向者を出さなければいけない。そういったときに稼いだお金で出向費に充てるしかないのかなと。組織で稼いでおきたい。

伴：お金がない単会がどうしてもある。全員登録の時にまつりでやきとり売ってお金を作るなど。元々の資産を会費でやっていると利益をどうするかとか、利益を作ってはいけない感じもあったり。

宮本：親会との関係もあるので事務局ではなく、パソコンに強いメンバーにある程度お礼をして任せる方法もありますよね。

伴：出展者会議ではないがそういう時間があってもいいのでは。そこに行けば参加者も見れる。これから参加しようとしている所も参考になる。

留萌：年齢の件。2年前に50から45にして13人卒業した経緯がある。急激に若返って経験者が減ったという問題がある。またブロック大会が周ってくる。メンバーが少ない単会がどうしているのか聞きたい。年齢を下げた単会の話。OBや親会との話も。

伴：50から45にしたところは聞かない。55から50はよく聞く。大会が終わったら下げるところはある。そうすると経験者がいなくなって若返るといのはある。聞いていると主力世代が下がるだけなので若いうちに色々な経験が出来るという点もある。一番動いているのはどこの単会も同じかなと。卒業の5～10年前の年代。45の所は40前後。50の所は45。下げるのは大変。

留萌：親子ほど離れているのはどうかと。早く卒業して親会の議員になれと。

伴：20代は宇都宮はほとんどいない。

留萌：24歳の委員長がいます。まつりがあり、起業したばかりの30歳の若い子が興味を持ってくれた。声掛けをしないと分からない。

伴：年間費が他に比べて高くないという面もある。JCは高いというのもあるが減少傾向にある。

留萌：JCとYEGの違いを一般の方が分かっていない。

名寄：JCを卒業したらYEGだと思われている。市民にどうPRしたらいいのか。今は逆転してYEGの

方が多い。

伴：逆転している地域が多くなっている。事業の内容で判断してもらえればいい。JCとも仲がいい所もあれば昔から仲が悪い所もある。違う団体だが、同じ地域にいるんだから仲良くすればいい。

宇都宮のYEGはJCが中心になって作った。今は130名いるが、JC卒業者は10人位しかいない。JCとも同じくらいの人数でやっているが、JCのいいところは使いましょう。そうでないところは使わない。お互いいものはいい。そこに法人会もくっついている。全部先輩関係。JCからYEG、法人会となる。法人会はみんな先輩。震災の翌日はその団体で募金活動をした。3団体で。午後は炊き出しをした。普段からの交流があったから。知っていればパッと出来る。お弁当も来ましたので食べながら雑談をしましょう。

県連会長：千歳は11月に設立する。江別は検討委員会が発足されている。くっちゃんも設置の方向。